■各市町の取組紹介パネル／サイズ：W841×H594

周南市
Shunan City

「学校と地域が一層連携する仕組みづくりを考える」

周南市教育委員会 **布施 安浩**

平成30年度は、地域とともにある学校づくりの充実をめざして、コミュニティ・スクールの機能と地域の教育ネットワーク（地域協育ネット）とのつながりを多面的で多様なものにしようと取り組んできた。地域連携担当教職員と統括（地域）コーディネーターとの連携を充実させ、各校区内のネットワークを主体性と活力のあるものにしていきたいと考え、中学校区を中心に担当教職員やコーディネーターを訪問した上で、各学校における地域連携担当教職員の位置づけを考える上での手引き「地域連携担当教職員の立場を生かすために」を作成したところである。

周南市の推進構想

本年度、周南市の「地域と"共に"ある学校づくり」を一層推進するために、これまでの周南市教育の実践とやまぐち型地域連携教育の理念や手法を基に学校がマネジメントする視点を示した「平成30・31年度 周南市「地域と"共に"ある学校」づくり運営の重点」を作成し、スタートした。

学校と地域の関係及び子どもたちの未来を考える教育プロジェクトである「地域と"共に"ある学校づくり」を実現するのは、校長のマネジメント力と学校と地域の総合力という考え方を柱に、新学習指導要領「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念のもと、コミュニティ・スクールは、新しい時代に求められる子どもたちに必要な資質・能力を学校が地域社会との連携・協働により実現を図る「社会に開かれた教育課程」を実践する基盤とすることが重要であることを踏まえて進めている。

これまで周南市では、コミュニティ・スクールの取組を進めるにあたって、学校と地域の横のつながり、小学校と中学校という縦のつながりをつむぎあわせることで、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって、9年間の義務教育を通して子供たちを育む「地域と"共に"ある学校」づくりを目指してきた。

そのための基本構想として、3つの運営と1つの効果を絡ませて全体像を描いている。

平成31年度からの2年間を、学校運営協議会の充実、合同学校運営協議会の発展、小中連携教育の深化をめざした運営の在り方を再点検する機会ととらえている。

また、やまぐち型地域連携教育の推進を図る中で、小中連携教育の充実から深化に向け小中一貫教育の研究に発展してきている。研究推進校を設けた3年間の研究では、合同学校運営協議会の運営が大きな力となっている。

周南市では、平成29年度に「地域と共にある9年間の学びカリキュラム」（学びの見取り図）として中学校区でまとめ、今後、随時更新していく予定である。

また、学校支援を支える取組として、地域（統括）コーディネーター、地域連携担当教職員、市民センター職員との合同研修会（周南市地域協育ネット合同研修会）を計画し、研修会に先立ち【手引き「地域連携担当教職員の立場を生かすために」】を作成した。学校と地域のつながりをさらに多面的に展開したいと考えている。

さらに、これまでの周南市コミュニティ・スクール推進協議会を地域とともにある学校づくり推進協議会として再スタートさせた。学校・地域・行政関係各課を交えた会に広げて開催することで、それぞれの立場で課題と考えていることを出し合いながら、子ども達のためのよりよい環境を整えていく協議の場となることを期待している。

このように「地域と共にある学校づくり」が進む中で、学校に地域の人がつどい、絆を深める場が生まれてきたことは、3つの運営を進めることでもたらされる効果として描いてきた姿である。

学校が大人の学びの場の積極的な開設に努め、高齢者の体操教室を市長部局との連携で実施する。地域の人や専門家と共に教室を本格的な美術館に模様替えし、展示作品を通して地域の人が交流し、子供たちとふれあう場として活用する。学校での乳幼児とのふれあい体験活動を始めることで、新たな地域のネットワークを生み出している。この他にも、様々なやり方で地域の人の拠り所となる学校が生まれてきている。

周南市の「地域と共にある学校づくり」は、子どもたちを成長させ、ふるさとを愛する心を育み、地域の人の絆を深め活性化につながる「学校を核とした地域づくり」に向かって歩み出している。

平成３０・３１年度 周南市「地域と“共に”ある学校」づくり運営の重点

周南市の「地域と”共に”ある学校づくり」を一層推進するために、これまでの周南市教育の実践と**やまぐち型地域連携教育の理念や手法**を基に学校がマネジメントする視点を示したものであり、学校と地域の関係及び子供達の未来を考える教育プロジェクト。

地域と”共に”ある学校づくりを実現するのは、校長のマネジメント力と学校と地域の総合力。

Ⅰ　コミュニティスクールの運営

1　学校運営協議会等組織の運営方法の向上
2　委員の参画を目指した協議と実践
3　適切な学校評価によるPDCAを生かした学校運営の改善

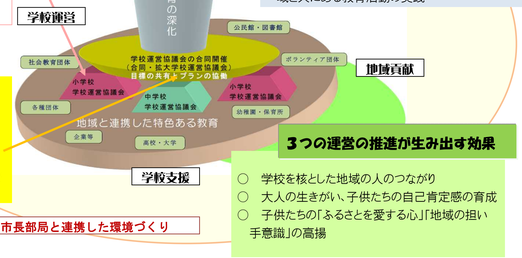
新学習指導要領「**よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る**」という理念のもと、新しい時代に求められる子供達に必要な資質・能力を学校が地域社会との連携・協働により実現を図る「社会に開かれた教育課程」を実践する基盤とする。

Ⅱ　合同学校運営協議会の運営

1　学校と地域の目標（めざす子供像）の共有
2　中学校区の教育のネットワーク充実
（地域協育ネット・地域学校協働活動の意味を合わせもつネットワーク機能への展開）
3　統括コーディネーターの役割の周知と連携の核となる体制づくり

Ⅲ　小中連携教育の運営

1　9年間の学びと育ちの目標の共有
2　交流活動の充実、連続性・系統性のあるカリキュラの検討
3　学校・地域連携カリキュラムの作成と活用による地域と共にある教育活動の実践



３つの運営の推進が生み出す効果

○　学校を核とした地域の人のつながり
○　大人の生きがい、子供たちの自己肯定感の育成
○　子供たちの「ふるさとを愛する心」「地域の担い手意識」の高揚

市長部局と連携した環境づくり

■各市町の取組紹介パネル／サイズ：W841×H594

▼区分

学校運営に係る取組　学校支援に係る取組　地域貢献に係る取組　学校(園)が連携した地域ぐるみの取組

取　組

▼解像度が低い

学校運営に係る取組

富田中学校

本校の課題である「人間関係づくり」を焦点化し、「いじめを許さない学校づくり」について熟議した。「会話」「食事」「居場所」「ルール」などを切り口に学校・家庭・地域が協働し何ができるか、どうあるべきかを生徒も交えて議論し、認識を深めた。

学校支援に係る取組

住吉中学校 体育館

「赤ちゃんと学校へ行こう！」をテーマにして、幼児とのふれあい活動を年3回実施した。1回目は、地域の方の企画によるゲームや中学生が作成したバルーンアートを使って楽しい時間を過ごした。

地域貢献に係る取組

岐陽中学校

生徒会活動と連携し、生徒たちがコミスクの横断幕を作成したり、執行部の生徒たちが活動を全校集会で紹介したりすることで、つながりの意識化を図っている。

学校(園)が連携した地域ぐるみの取組

熊毛中学校旧第2美術室

「熊毛の子どもたちに本物の芸術に触れさせたい。校内に美術館を作って地域の方々にも公開したい。」という思いをもって実行委員会を立ち上げ、開設の準備・展示の企画・運営を行った。

学校運営に係る取組

徳山小学校

年間カリキュラム表を基に、委員の方から、子供のことばの力を高めるために、地域の人材や場所、素材等や、活用方法についてお知恵をいただいた。

学校支援に係る取組

菊川小学校運動場

地域の皆様のご協力により、3年生が、羽釜でのご飯炊きを体験した。当時の人々の苦労を実感するとともに、羽釜で炊いたご飯のおいしさを味わうことができた。

学校支援に係る取組

秋月小学校運動場

6年生が徳山大学陸上部の学生さんに陸上競技の各種目を指導していただいた。地域の先輩たちの指導が技能だけではなく、やる気の向上にもつながった。

学校(園)が連携した地域ぐるみの取組

周南市老人休養ホーム「嶽山荘」

6年生が、「伝えよう！受け止めよう！心のチカラ！」をテーマに、総合的な学習の時間として「ともに生きる～サルビア会との交流～」の学習を位置付け、5月と10月に年2回の交流会を行っている。